埼玉純真短期大学研究論文集　第３号　PP.51-56

学生の学習意欲を高めるピアノ教育の一考察
－ J. ブルグミュラー「25 の練習曲」の指導を通して －

Piano Education to Improve Student Learning.
－ through J.Burgmüller '25 Studies' －

小　森　光　紗
（こども学科　非常勤講師）

要旨　短期大学入学時、ピアノの演奏経験が無い学生や初級者の学生にとって、2 年間でピアノの演奏技術を習得することは非常に困難である。昨今、ピアノを演奏することの難しさや厳しさばかりに追いつめられ、ピアノに対する苦手意識を抱えてしまう学生があふれているように思われる。そこで、学生が音楽への興味・関心を持ち、将来、教育・保育現場で役立つ教材を選曲し、ピアノを演奏することへの意欲をかき立てる学習内容を考える必要性があると考えた。

J. ブルグミュラーが作曲した「25 の練習曲」は、豊かな個性や多彩な表情を持っており、学生に親しまれやすい曲集である。そして、教員・保育者養成課程の教材として取り入れることは、有効であると考えられている。本稿では、学生へのアンケート調査を行い、ピアノの学習に関する問題点及び教員・保育者養成課程における教材の有効性について検証し、学生の学習意欲を高める指導について探る。

【キーワード：音楽　ピアノ　授業内容**】**

Ⅰ．はじめに

本学の基礎技能に関する音楽系開講科目は、半期 15 回（年間 30 回）実施している。各授業は、クラスを 2 分割し、全体授業とピアノの個人レッスンを 45 分入替制で行っている。学生 1 人あたりの個人レッスン時間は、約 10 分という大変短い時間である。

入学時にピアノの演奏経験が全く無い学生や初級者が大半を占める本学の学生にとって、2 年間でピアノの演奏技術を習得することは、非常に困難で険しい道のりであることは言うまでもない。当然のことながら、初期の段階で読譜力の未熟さから音の読み間違いや運指など、ピアノの基礎的な演奏技術の習得でつまずいてしまう学生も出てくることになる。その結果、ピアノを演奏することの楽しさよりも、難しさや厳しさばかりに追いつめられ、苦手意識を抱えてしまう学生が見受けられるようになる。筆者は、「ピアノを演奏することが楽しい。」と学生に感じさせ、興味・関心を持たせることこそ学生の学習意欲を高める即効薬になると考え、学習意欲を高めさせる教材選択や指導法の工夫を研究している。

本稿は、2 年次に開講される「音楽Ⅲ」（通年開講科目）の個人レッスンに注目し研究したものである。まず、1 年次に開講される「音楽Ⅰ・Ⅱ」（各半期開講科目）において、主に「バイエル教則本」を使用し音楽の基礎知識や基礎的な技術を習得する。そして、2 年次には、その技術のさらなる向上を目指し、教育・保育現場において必要とされる課題にも取り組む。ピアノ曲の教材として、J. ブルグミュラー「25 の練習曲」、ソナチネ、ソナタ、その他のピアノ曲を使用し、より高度な技術と音楽表現力を習得する。これらの教材の中でも特に、J. ブルグミュラー「25 の練習曲」は美しい旋律やハーモニーで作られた曲が多く、学生が親しみやすい曲であると考える。また、この 25 曲の練習曲は、各々が豊かな個性、多彩な表情を持っており、自由な発想での音楽作りを可能とし、想像力を膨らませることができ、学生のレベルや嗜好に合わせて選曲ができるという利便性も兼ね備えているものと筆者は考える。

そこで、学生へのアンケート調査を通して、学生のピアノ学習に関する問題点及び教員・保育者養成課程における J. ブルグミュラー「25 の練習曲」の教材としての有効性について検証する。

Ⅱ．調査方法

A：第１回アンケート調査

○　調査時期：平成 21 年４月上旬

○　調査対象：本学２年次「音楽Ⅲ」履修者 75 名（回収率 100%）

○　調査内容：ピアノに関する調査（資料１参照）

B：第２回アンケート調査

○　調査時期：平成 21 年４月中旬

○　調査対象：本学２年次「音楽Ⅲ」履修者の中から、第１回アンケート調査を実施した時点で J. ブルグミュラー「25 の練習曲」を学習したことのある学生 46 名（回収率 100%）

○　調査内容：中級者を対象としたピアノに関する調査（資料２参照）

Ⅲ．結果と考察

第１回アンケート調査では、学生のピアノに関する調査を行った。そして、第２回アンケート調査では、第１回アンケート調査を実施した時点で J. ブルグミュラー「25 の練習曲」を学習したことのある学生を対象に、中級者を対象としたピアノに関する調査を行った。研究 A では、第１回アンケート調査に基づいた結果と考察を、研究 B では、第２回アンケート調査に基づいた結果と考察を述べる。

研究 A

表１の結果から、本学入学時までにピアノレッスンを受けたことが無い学生が約６割を占め、ピアノの経験者が少ない結果になった。この結果をふまえ、年間 30 回といった短時間のレッスンで、いかに教育者・保育者としての目的に沿った授業を行うかを考えなければならない。

筆者たちには、授業内容の厳選と指導の効率化が要求されるであろう。これは、時間的に大変厳しい状況である。また、初心者とは対照的に、ピアノを幼少期から学習し入学している経験者もおり、経験値に大きな幅がある学生たち個々のニーズにあった授業内容を模索していかなければならない。

○　表１　レッスン経験の有無（単位：名・%：四捨五入）

全体	有る	無い	無回答
75（名）	39（%）	60（%）	1（%）

表２の結果から、ピアノに対する苦手意識を持った学生が半数以上となった。そして、苦手意識を持った学生が、具体的な理由として自由記述したものを表３に挙げる。

１年間レッスンを受けてきた２年次の学生に対するアンケート調査でもあるに関らず、ピアノに対する苦手意識が払拭できていないことが確認された。これは、ピアノのレッスンを担当する教員が、時間の制約などから、詰めこみのレッスンをしているのではないかと懸念される点である。

○　表２　ピアノに対する意識（単位：%：四捨五入）

とても得意	得意	普通	どちらかというと苦手	苦手
3（%）	13（%）	28（%）	27（%）	29（%）

○　表３　ピアノの苦手意識についての自由記述

- 楽譜を読むのが苦手、楽譜が早く読めない。
- 指が動かない。
- 両手で合わせるとうまく弾けない。
- リズムがとれない。リズム感が無い。
- 指使いが正確にできない。
- 速いパッセージが追いつかない。
- レガートが難しい。一音一音が切れてしまう。
- テンポを一定に保つ事が難しい。

表４の結果から、読譜に対する苦手意識を持った学生が６割以上となった。そして、苦手意識を持った学生が、具体的な理由として自由記述したものを表５に挙げる。

自由記述の中にある「指が思うように動かない」という点に関しては、練習環境も影響しているように思われる。鍵盤楽器を所持していない学生、または、鍵盤楽器を所持しているが電子ピアノやキーボード等、ピアノとは異なる楽器で練習している学生も少なくない状況である。整った環境で学習することも技術習得への近道であることは言うまでもない。

○　表 4　読譜に対する意識（単位：%：四捨五入）

とても得意	得意	普通	どちらかというと苦手	苦手
3（%）	12（%）	21（%）	28（%）	36（%）

○　表 5　読譜の苦手意識についての自由記述

- 楽譜を見るだけでいやになってしまう。
- 音符が泳いで見えるから見づらい。
- 音名がスラスラと読めない。
- 楽譜を見ながら弾くのが難しい。
- 極端に低い音とか高い音を読むのが苦手。
- のばす長さなどがわからない
- へ音記号の読み方
- 鍵盤のどの場所を使うのかがわからない
- 難しい：リズム、付点、音階、ト音記号とへ音記号、転調、移調、調号

これまでの調査より、ピアノへの苦手意識が目立ち、学習意欲の低さが懸念される。そのため、ピアノの練習時間が少ない、練習が出来ないという状況に陥るのかもしれない。

表 6 の自由記述から、練習時間が少ない原因として、「やる気が出ない」、「気が進まない」、「練習が嫌い」等、ピアノ学習に対して消極的な姿勢が見られた。そして、「学習している曲が好きになれない」、「つまらない」等の回答も目立った。教員側から与えることばかりではいけないが、学生が興味を持つ楽曲を選定し、ピアノに対する学習意欲をかき立てる授業展開及び授業内容を今一度考える必要があると考えられる。

○　表 6　練習に対する自由記述

- やる気が出ない。気が進まない。練習が嫌い。
- 難しいとやる気をなくす。
- 時間が無い。忙しい。
- 家にピアノが無い。練習するためのピアノが無い。
- 学習している曲が好きになれない。つまらない。
- 一つの曲につまずいて先に進めない
- 練習方法がわからないので、単調な練習方法になってしまう。

研究 B

以下の研究は、第 1 回のアンケート調査時に J. ブルグミュラー「25 の練習曲」を学習したことのあると回答した学生に対し、第 2 回のアンケート調査を行ったものから考察する。

表 7 の結果より、J. ブルグミュラー「25 の練習曲」を「嫌い」と回答した学生は、非常に少数であった。同時に、表 8 の自由記述では、「聴いた事がある曲、知っている曲が多い」という回答を多く得られた。

これらの結果から、初級者のために書かれた数多くのピアノ曲集の中で、約 150 年も前に J. ブルグミュラーが作った「25 練習曲」が、現在でもよく使われる教材の一つであることを示唆していると考えられる。学生にとって、知っている曲が弾けるということは喜びにつながり、曲を仕上げた時の達成感も一層大きい。学生に好まれる教材を使用すると、教員側にも多くの便益をもたらすであろう。学生の学習意欲は、レベル向上のための何よりの手助けとなることは言うまでもない。

○　表 7　「25 の練習曲」に対する意識（単位：%：四捨五入）

とても好き	好き	普通	どちらかというと嫌い	嫌い
4（%）	35（%）	55（%）	4（%）	2（%）

○　表 8　「25 の練習曲」に対する自由記述

練習曲の好きなところ	練習曲の嫌いなところ
・聴いた事がある曲、知っている曲がある。 ・知っている曲が弾けると嬉しい。楽しい。 ・メロディーが好き。 ・曲の長さがちょうどいい。 ・難しい曲が弾けると達成感がある。 ・きれいな曲が多い。 ・曲調になっていて面白い。 ・弾きやすい曲が多い。 ・軽快なリズムの曲が多い。	・細かくて見づらい。 ・難しい。 ・和音が難しい。 ・好きな曲がない。 ・リズムが複雑。

2回のアンケート調査を通して、学生にはピアノの苦手意識、学習意欲の低さが見られた。その一方で、教材としてJ.ブルグミュラー「25の練習曲」は好まれ、意欲を持って学習できる教材であるということが検証された。これらから総合して、J.ブルグミュラー「25の練習曲」は、学生のピアノの苦手意識を改善・払拭するための教材として有効であるると考えられる。

そこで、表9に筆者が考えるJ.ブルグミュラー「25の練習曲」に対する教材価値を挙げる。

○ 表9 「25の練習曲」の教材価値

- 初歩段階の教則本としての条件（広すぎない音域、多様なテンポ等）を備えている。
- 音楽で必要とされる基本的な要素（リズム、旋律、和声等）を、初級者に習得させる事ができる。
- 技術・音楽内容の両面において、無理なく習得できるように作られている。
- 学生のレベルや長所短所に合わせた選曲ができる。
- 好かれる曲・美しい曲が多い。
- 美しい旋律、ハーモニーが多い。
- 小曲なので取り組みやすく、暗譜しやすい。
- 各曲の標題を生かした音楽作りが可能。
- 感性を磨く教材として適切である。
- 音楽の表現をより豊かにすることができる。
- 指のテクニック（運指法など）の練習に役立つものが多く含まれている。
- 技巧的に負担が少ない。
- 小さな手でも届く範囲の音で書かれている。（音程が最も広いところでもオクターヴ以内）
- わかりやすい単純な形式（2部形式、3部形式等）でつくられている。
- 調性は♯、♭の数が4つまでになっている。
- ペダルの初歩的な訓練ができる。
- 鑑賞用に適した曲が多いので、発表する曲、試験曲としても相応しい。
- 主旋律と伴奏部のバランスを指導するのに適切な曲が多い。
- 強弱記号・発想記号・速度変化記号の表示がきめ細かい。

Ⅳ．まとめにかえて

学生へのアンケート調査で、入学時の初心者数やピアノに対する苦手意識を持った学生の数に驚いた。教員・保育者養成課程のカリキュラムは、ピアノの初心者にとって、非常に難しく厳しい道のりであるが、限られた時間、環境の中で音楽の楽しさ、素晴らしさを伝えていかなければならないと考えている。学生が、音楽への興味・関心を持てるよう、学習意欲を高められる曲、音楽的に美しい曲、そして、教育・保育現場に有効な教材を選曲して、学生の学習意欲をかき立てる学習内容を考える必要性があるのだろう。

教員・保育者養成課程におけるピアノ指導は、音楽を通して子どもたちの表現を引き出す手助けとしての演奏技術及び演奏能力が必要となる。そのため、子どもたちと音楽を通して関わることを目的とし、いかに音楽的に演奏し表現するかを忘れてはならない。高度な演奏技術ばかりを要するのではなく、簡単なメロディーであっても音楽的に、表情豊かに演奏できることが望まれるのである。

J.ブルグミュラー「25の練習曲」は、各々が豊かな個性や、多彩な表情を持っており、自由な発想での音楽作りを可能としているものである。そして、演奏者の想像力を膨らませることができる曲集であり、ピアノ演奏の表現力はもとより考える力までをも伸ばすことができるのではないかと考える。これは、音楽で必要なあらゆる基本的な要素も持ち合わせているからであろう。また、現在でもよく弾かれている教材の一つであり、学生の認知度が高いことも学習意欲向上の要素の一因と言えるであろう。

様々な調査結果をふまえ、筆者は、J.ブルグミュラー「25の練習曲」を教員・保育者養成課程の教材として取り入れることを「有効」であると考える。教育内容・保育内容に適した感性豊かな表現という本来の着目点を忘れず、演奏能力の向上を含め、子どもたちとの音楽の関わりを目的とする学習内容を探求していきたいと考える。

参考文献

J. ブルグミュラー「25 の練習曲集」（全音楽譜出版社）

資料

音楽Ⅲ（ピアノ）　アンケート

このアンケートは、より良い授業を目指す為にお尋ねするものです。
名前は書かなくていいです。

ピアノを演奏するのは得意ですか？

１とても得意
２得意
３普通
４どちらかと言うと苦手
５苦手

苦手意識がある方は、具体的に何が、どのように苦手ですか？
例：楽譜が読めない。指が思うように動かない。

（　　）

短期大学入学時（高校以前）は、ピアノ経験がありましたか？

１初心者だった
２ピアノ経験があった
（　　歳～　　歳まで）

２にマルをつけた方は、ピアノを経験したのはどこですか？

１音楽教室　２ピアノ個人レッスン　３その他（　　）

現在（短期大学２年次）のピアノ進度についての質問です。
これまでに学んだ曲集にマルをつけてください。

１バイエル（　　番まで終了）
２ブルグミュラー２５の練習曲
３シェルニー練習曲３０番、４０番
４ソナチネ
５ソナタ
６その他のピアノ曲　（教材名　　）
７こどものうた

ピアノ練習時間についての質問です。
どのくらい練習をしますか？

１毎日（　　時間　　分）
２週に　　回くらい（　　時間　　分）
３ピアノレッスン前のみ（　　時間　　分）
４その他（　　）
５全く練習しない

練習時間が少ない方は、練習ができない原因は何ですか？
例：練習が嫌い。練習の方法がわからない。練習するためのピアノがない。アルバイトが忙しい。

（　　）

どこでピアノを練習しますか？

１大学の練習室
２自宅
３下宿
４親戚、友人宅
５その他（　　）

自宅（下宿）には練習用の楽器がありますか？

１ある
２ない

１にマルをつけた方は、具体的にどのような楽器ですか？

１ピアノ
２電気ピアノ
３キーボード
４エレクトーン
５オルガン
６その他（　　）

楽譜を読むのが得意ですか？

１とても得意
２得意
３普通
４どちらかと言うと苦手
５苦手

苦手意識がある方は、具体的に何が、どのように苦手ですか？
例：音名（ドレミ）がすらすらと読めない。ヘ音記号の読み方が苦手。複雑なリズムがわからない。

（　　）

ブルグミュラー25の練習曲についての質問です。

ブルグミュラー25の練習曲の楽譜を使っている方は、どの出版社の楽譜を使っていますか？

１全音楽譜出版社
２音楽之友社
３ドレミ楽譜出版社
４その他（　　）

ブルグミュラー25の練習曲を勉強した事がある方に質問です。

ブルグミュラー25の練習曲は好きですか？

1とても好き
2好き
3普通
4どちらかと言うと嫌い
5嫌い

ブルグミュラー25の練習曲の好きなところを書いてください。
例：知っている曲が弾けると嬉しい。ペダルが使える。メロディーがきれいな曲が多い。

（　　）

ブルグミュラーの嫌いなところを書いてください。
例：好きな曲が少ない。トリルが上手く弾けない。メロディーをレガートで弾くのが難しい。

（　　）

ブルグミュラー25の練習曲の中で、どの曲を知っていますか？聴いた事がありますか？

すでに勉強した、又は現在勉強中の曲は何番ですか？

下の表の当てはまる欄にマルをつけてください。

番号	題名	知っている曲、聴いた事がある曲	すでに勉強した、又は現在勉強中の曲
1番	素直な心		
2番	アラベスク		
3番	牧歌/パストラル		
4番	こどもの集会/小さなつどい		
5番	無邪気		
6番	進歩/前進		
7番	清らかな小川		
8番	優美		
9番	狩り		
10番	やさしい花		
11番	せきれい		
12番	さようなら		
13番	なぐさめ/コンソレーション		
14番	スティリアの女/シュタイヤー舞曲		
15番	バラード		
16番	小さな嘆き		
17番	おしゃべり		
18番	気がかり/心配		
19番	アヴェ　マリア		
20番	タランテラ		
21番	天使の合唱/天使の声		
22番	バルカロール（舟歌）		
23番	帰途/再会		
24番	つばめ		
25番	貴婦人の乗馬		

ブルグミュラー25の練習曲の中で、好きな曲ベスト3を書いてください。
（知っている曲の中から答えてください。）

①　　②　　③